



令和6年11月6日(水)発行
校長 栗原 友恵

北九州市小倉北区昭和町16番1号

HP: www.kita9.ed.jp/nakashima-e/
TEL: (093) 921-1690

<学校教育目標>

体・徳・知 調和のとれた心身ともに健康な子どもの育成

<目指す子ども像>

- 相手の立場に立って考える思いやりのある子ども
- すすんで学び、自ら考え、表現する子も
- 元気に学び、すすんで運動に取り組む子ども

<目指す学校像>

- 安全な学校 ○温かい学校
- 笑顔があふれる学校
- 「中島小大好き」と言える学校
- 成長(学習)し続ける学校
- 保護者・地域・関係機関と連携する学校

10月23日(水)【2日目】

2日目の朝は、6時45分に起床。朝のつどい、朝食を終え、室内の清掃活動を行いました。みんなで協力して、2日間お世話になった場所をきれいにしました。最後のプログラムは「海賊の大冒険」です。どんよりした空ではありましたが、ようやく外での活動ができました。前日の雨の影響で、山の中に入ることはできず、コロリン坂、ズルズル坂などのコースは体験できませんでしたが、各班で協力し、チェックポイントの問題を解きながら、海岸探索などを楽しみました。ゴールするころには青空で、前日できなかった「磯遊び」をすることができ、貝殻やシーグラスをたくさん拾いました。最後は海岸の清掃を行い、活動を終わりました。もじ少年自然の家での最後の食事。おいしくいただき、食堂の方に大きな声で「ありがとうございました!」と一人一人お礼を言いました。そして、退所式を終え、学校へ向かいました。

5年生 大きく成長した自然教室

10月22日(火)・23日(水)の2日間、もじ少年自然の家で、5年生の「自然教室」を行いました。今年は門司区の大里南小学校と合同でした。1日目は朝からあいにくの雨で、雨天のプログラムに変更して行いました。2日目も前日の雨の影響で内容を変更しての実施となりましたが、『心の絆』をスローガンに、2日間元気よく活動することができました。学校や家庭ではなかなかできない経験ができたと思います。

10月22日(火)【1日目】

1日目。入所式、昼食を済ませ、体育館で最初の活動「室内オリンピック」を行いました。①新聞リレー②ボール運びリレーその1③ボール運びリレーその2④ドリブルリレー⑤ヨットレース⑥関所破り の6つの種目を、中島小学校2チーム、大里南小学校4チームの計6チームで競いました。次に、中島小学校、大里南小学校5年1組、5年2組の3クラスで、クラス対抗大縄跳びを行いました。最後は、中島小学校と大里南小学校の混合で2チームに分かれて、ドッチビーをしました。大里南小学校の5年生は58名と中島小学校5年生22名の80名で行った室内オリンピックは、大盛り上がりで終わりました。

夕べのつどい、夕食の後は、「室内試肝会」です。大里南小学校の校長先生のこわ〜い話を聞いて、いよいよ出発。室内の恐怖ゾーンをまわり、お札(おふだ)を取ってきます。各校、応援に来てくれた先生方によるたくさんの仕かけに、外とは違うスリルを味わいました。暗闇の中、みんなの悲鳴がとどろき続けました。

試肝会を終えると、お風呂です。短い時間でしたが、みんな譲り合って、時間内に上手に入浴することができました。その後、班会議で班長を中心に一日を振り返りました。疲れていたのでしょう。10時過ぎにはみんな就寝しました。

出発式の『校長先生の話』では、自然教室を成功させるために守ってほしい3つのこと、「考動(自分で考えて動く)」「聴く(相手に目・耳・心・体を向けて聴く)」「感謝(たくさんのありがとうを言葉にする)」の話をしました。最初は5分前行動が守れない場面がありましたが、その反省を生かし、すぐに早目早目の行動ができるようになりました。なんとといっても、よく食べてよく寝て、全員元気に2日間を過ごすことができ、感心しました。帰校式でのみんなの笑顔から、大きな成長を感じました。

こうして自然教室が成功に終わったのは、もちろん子どもたちが頑張ったことが一番です。ですが、保護者の方、先生、友達、もじ少年自然の家の方、多くの方のおかげで無事自然教室を終えることができたのだという「感謝の思い」を、子どもたちには感じてほしいと思います。今回、みんなに思い出を作ってもらいたいと、たくさんの先生が駆け付け、お化け役になって室内試肝会を盛り上げてくれました。学校に帰り着くと、職員室にいる先生はみんな正門に出迎えに来てくれました。きっと5年生の2日間の成長を感じたことでしょう。1泊2日の宿泊学習で学んだ「規律・協同・友愛・奉仕」の心を、今後の学校生活でも意識して行動してほしいと願っています。これからの成長が楽しみです!

子どもたちに[生きる力]を育むためには、自然や社会に触れる実際の体験が必要です。子どもたちは、具体的な体験や事物との関わりをよりどころとして、感動したり、驚いたりしながら考えを深める中で、実際の生活や社会、自然の在り方を学んで生活を創り出していきます。このように、体験は子どもたちの成長の糧であり、[生きる力]を育む基礎となっています。しかしながら、今日、直接体験が不足しているのが現状です。学校では、今後も様々な体験活動を工夫して行っていきたいと思います。きまぐれ。そして、そこで得た知識や考え方を基